



善正寺だより

掲示板法話

「一生のいのち」を頂くと気づけば お念仏がこぼれ出てくださる

新年おめでとございます。昨秋、兵庫県日本海側のお寺に行く機会がありました。カニ漁の盛んな土地柄ですので、お食事にカニを沢山頂きました。「こんな大きなカニになるまでに長い時間がかかったのだらうな」と思ったとき、「カニを食べた」という詩が思い浮びました。

カニを食べた カニの一生を食べてしもうた カニにもろうた今日の私の命
イモを食べた イモの一生を食べてしもうた イモにもろうた今日の私の命
そう思うとお念仏がこぼれてやまぬという篤信の仏教徒ならではの詩です。

この詩は北海道小樽でお念仏の教えを喜ばれた島本邦子さんが小樽別院のお朝事にお参りになる道すがら、ふと足をとめてメモされた詩です。「沢山生まれの卵の中で立派なカニになれる確率は何万分の一なのだそうだし、それを私一人が一度にあつという間に頂いてしまうとは何ともしないこと

あろうかと思われ、お念仏がこぼれてやまなかった」と島本さんは詠まれました。お称えするお念仏が、「こぼれ出るお念仏」と感じられたのです。

その話を法話の中で紹介しましたら、お世話下さる総代さんが「今日のお齊は門徒総出で掘ってきたものですが、山芋もウドもマツタケもきのこもみんな一生のいのちを頂くのですね。食事の言葉に実感が涌きますね」と喜ばれました。そのお寺のお齋は、七種類の塗り物椀に全て地元山や畑で採れた食材がおいしく味付けされたもので、旅館で頂くかに料理とはまた一味違った手作りの味でした。「多くのいのちと皆様のお陰によりこの馳走を恵まれました」という食前の言葉通りのご奉仕をかみ締めたことです。頂いた後の「尊いお恵みをおいしくいただき、ますますご恩報謝に努めます」という食後の言葉もまた、一層実感を伴って伝わりました。地元で採れた食材と伝統の味はご苦労が大きいだけ一層「いのちあるものへのいとおしさと感謝の心」も深まるように思われました。



〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

報恩講

※11日午前11時から12時お非時(昼食)

庫裡で食事接待、手作り料理をお召し上がり下さい

1月11日(火)午後1時半、夜6時半

12日(水)午前10時、午後1時(主催)三全仏婦

講師:大島信隆先生(岸和田市)

◇13、14、15、16日の朝7時から「お朝事」本堂で
正信偈お勤め後、法話と茶話会

♪三重組コーラス♪ 会場西勝寺様で午後1時半、三重組主
導で新指導者体制1/18(火)、2/7(月)、3/7(月)

◇キッズサンガ

※12/31大晦日「除夜の鐘」夜11時45分より

※1/1(土)朝9時「元旦会」本堂で、お年玉付

※毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK 飴ガム付。年中無休

予告☆3月の「永代経お経開き」のみ1/16(日)午前10時半

☆3/5(土)6(日)永代経、◇3/20(日)夜三全仏婦総会

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索、「つれづれ日記」が好評

長男もブログに参加、3万5千回アクセス達成! 毎日50~60

訪問に感謝! HPからのメール、悩み相談など大歓迎!

住職と坊守の2冊目共著本「虫の眼鳥の眼仏の眼」(千円)

お悔やみ申し上げます
★山本芳子様(11月27日亡・
75歳・東阿倉川) 合掌
★和波司朗様(12月5日亡・84歳
三ツ谷町) 合掌

今年はいよいよ親鸞聖人七百五十回大遠忌の年です。「如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし 師主智識の恩徳も 骨を砕きても謝すべし」という恩徳讃の言葉は、「報ずべし、謝すべし」という命令形でなく、「報謝せざるおれませぬ、感謝せずにおれませぬ」とかみ締め、かみ締め味わわせて頂きたいものです。



40名以上のお参りでにぎわったお内仏報恩講:22年12月4日

坊守スケッチ

支えあつてこそその老夫婦

机の中の片隅から新聞の切り抜きが出てきました。中日新聞の『虹』欄に、名古屋市内に住む45歳主婦・近藤美代子さんからの投稿記事でした。ほのぼのとした気持ちが伝わり、感動したので大切に保管していたのでしよう。その一部を紹介します。

「父は79歳、母は72歳。2年前に母が脳梗塞で倒れ、その1カ月後に父が前立腺ガンで余命1年と宣告された。父は手術せず在宅で治療。母は嚥下障害を起こしたがリハビリで食べられるようになった。ただ認知症も重なり、立つことも歩くことも出来ない。平日はデイサービスと病院のリハビリに通うが、週末と夜間はガン治療中の父が面倒を見る。料理、洗濯、オムツ換え・昔の厳格だった父の面影はない。先日実家に手伝いに行つたところ、視力を失いつつある母が、私の『こんにちは』という声に『よく来たね。ごめんね』と泣いた。母の手を握り、

『お母さん、こんな体になつて生きてるのは辛くない?』と尋ねると、母は首を横に振り、『お父さんが優しくなつてくれて嬉しいよ』と言つた。父は照れながら、『お前が俺には最後の女々々と歌謡曲の一節を歌つた。父は笑顔の戻つた母の頭をなで『母ちゃんが可愛いから、俺が最後まで世話をす

る』と言つた。私は両親の言葉を聞いて、胸が熱くなつた。どんな姿になつても、母が生きています。そのことが父に生きる気力を与える。二人の過ごしてきた歳月の結晶が、今美しい時間となつて流れている。私はこの両親の娘であることを誇りに思う」という内容。何て心温まる話でしょう。私達も子供達から「誇りに思う両親だ」と思われる生き方をしてきたでしょうか?

一方ある人から聞いた話です。「都会に住む一人息子が、田舎の母親が病んだ途端『自分達の生活で精一杯だから親の面倒はようみない』と、老いた父親に言つてきたそうです。親はどんな気持ちでこの言葉を聞いたのでしょうか?苦勞して育てた子供から、こんな言葉しか返つてこないとは、情けないことです」と嘆いていました。核家族になつた現在、こういう家庭は結構多いのではないのでしょうか?親の面倒を看たくても看られないというのが実情かもしれません。そのため介護保険制度かも知れませんが、却つて家族力を弱める一助になつていそうです。遠く離れていても、せめて優しい言葉と思ひやりが掛けられる親子関係であつて欲しいと願います。若い頃は仕事一筋で、家庭のことは奥さんに任せっきりのご主人が、定年後思わぬ病気がきつかけで、一緒に散



歩を楽しんでいる。夫婦を見かけます。老いてこそ支えあえる夫婦や親子の関係を、日頃の元氣なうちから心掛けて築くことが大切だと思います。

☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆潤爾由佳 二方様の 御成婚
門徒ら皆が 言祝ぐ年初

☆松茸を 真似て彫みし 芋煮付け
門法会館 昼餉の破子

☆砂丘観る 船で撒く餌に 鷗らの
競い纏はる 姿吾かも

四日市市 釈恩厚

☆今年もまた 共に結ばれた仏縁で
行つて来ました 夫婦の日

※11月22日、御堂演奏会のコーラスに、ご夫婦で参加されました。

♪三重組コーラス♪

☆西勝寺様で午後1時半1/18(火)
2/7(月)3/7(月)新指導者で練習

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇12月31日夜11時45分除夜の鐘
◇元旦会朝9時本堂で正信偈お年玉付
新年のスタートは家族揃つて参拝。

夕方5時の鐘撞きは毎日。ガム・飴

☆カンパ有難う☆

谷口よう子様・匿名様よりお志・切手
有難うございました。

☆ホットニュース☆

☆12月4日(土)夜お内仏報恩講に、

40名以上の方がお参り。酒食、ぜんざい等、賑やかな忘年会の集りでした。終了後、世話方さんらと来春4月3日の長男披露宴ついて2回目のご相談。

☆西本願寺大谷光真「門主と文化人類学者上田紀行氏の対談本『今、ここに生きる仏教』(平凡社)発売。ご門主様の本音が分かる興味深い一冊!

☆善正寺のホームページ「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。長男も若い感覚でブログ投稿。開設2年5か月で3万5千回以上アクセス!

☆住職と坊守の2冊目の共著本『鳥の眼・虫の眼・仏の眼』(自照社刊)好評発売中!挿絵は門徒の服部雅之氏(定価1260円)を著書割引千円で特別販売)

平成23年度善正寺主な行事予定
※1/1(土) 午前9時「元旦会」
※「報恩講」(大島信隆先生1/11(火) 午前11時より非時午後・夜・12(水) 午前・午後(三全仏婦主催)

※3/5(土) 6(日)
「永代経」(石川欣也先生)
※3/20(日) 夜、三全仏婦総会

※4/3(日) 長男潤爾結婚式
※5/22(日) 総会(午前)・公開法座(午後)(藤大慶先生)

※8/20(土) 午後・夜21(日) 午後「永代経」(足利孝之先生)
※9/18(日) 午前・午後・小杉仏教会主催「追悼法要」(貴島信行先生)

※10/15(土) 親鸞聖人750回大遠忌法要本山参拝バス一台50名

明けましておめでとうございます。平成二十三年は本山
にとって記念すべき年です。親鸞聖人140回大遠忌法
要が半年以上に渡って盛大に営まれます。50年の一度の大
法要にせひあななもご参拝下さい。善正寺では10月15
日(土)に大聖バス一台50名で団体参拝予定。その時は、
かねてより練習した音楽法要で勤まします。また今年に
善正寺にとっても大きな節目の年です。4月3日(土)に
長男が結婚します。昨年末より世話方さんにご相談した
ところ、若さんの一世代のお祝い皆で本堂でお祝いしようと
いうことになりました。当日夕方門徒向け披露宴を開催
します。世話方さん、行事さん、女性の皆様方には準備とお
世話の為に多大のご負担をおかけしますがどうかよろしくお
願います。ある方から「奥さん達の結婚式にも赤飯を
おひつ一杯作ってきたから、若さんの時も張り切らせてもら
うわ」と嬉しいお申し出を戴きました。お寺は皆様方のご
懇念とご報謝によつて支えられています。その有難さ尊
さをしみじみかみしめています。思い返せば37年前、何も知らず
に自紙の状態で寺に嫁いだ私。その日新郎がお坊さんの
恰好をしていたのでビックリしました。こんな私でも皆様方か
ら許され見守られ温かくお育てを戴きました。どうか若
い二人にも同様のお育てをよろしくお願いいたします。一月は
報恩講月間、11(火)午後・夜・12(水)午前・午後(三時)と
勤まります。ご講師は大阪より大畠信隆先生です。皆様
のご参詣お符ち申し上げます。

合掌

平成二十三年一月

善正寺坊守 拝